

NEWS RELEASE



2025年6月19日

各 位

株式会社北洋銀行

ほっくー基金を通じて助成金を贈呈しました！ ～北海道の生物多様性保全に取り組む19団体へ総額800万円を助成～

北洋銀行(頭取 津山 博恒)は自然資本の保全・回復に取組むため、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)*に賛同し、北海道の生物多様性保全に関する取組みを進めています。

その取組みの一環として、北海道の生物多様性保全に取り組む団体を支援する「ほっくー基金北海道生物多様性保全助成制度(以下、ほっくー基金)」を通じて助成金を贈呈しています。2025年度は、19団体に800万円の活動資金を助成しました。ほっくー基金による助成は累計1億60万円(延べ204先)となります。

選定先は、特別天然記念物・絶滅危惧種の生息環境保護、繁殖環境の整備や特定外来生物の防除、植樹に加え、幅広い世代への生物多様性保全に関する教育等の活動団体を選定協議会による厳正な協議により決定しています。評価基準には、TNFDで自然資本の対象として定義されている「陸、海、淡水、大気」への寄与、北海道生物多様性保全計画(第2次計画)における圏域別の生物多様性保全方針に資する活動等を取り入れています。

当行は引き続き、北海道の豊かな自然環境の維持や生物多様性保全に取り組み、ネイチャーポジティブの実現と地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

*Taskforce on Nature-related Financial Disclosures 企業が自然資本や生物多様性に関わるリスクや機会を把握し、それらの影響を財務的な観点から情報開示するための国際的な枠組み。

【贈呈式の様子】



各団体における活動の詳細につきましては、別紙をご参照願います。

以 上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋 SDGs 宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGsに関連するプレスリリースには、該当するSDGsのアイコンを明示しております。

【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

ほっくー基金

【2025年度助成先のご紹介】

ほっくー基金 のしくみ



「ほっくー基金」の主な原資は、「通帳レス口座」、「LINEスタンプ」および「WEB完結型ローン実行件数」です。通帳レス口座はスマート通帳や北洋銀行アプリなど通帳デジタル化による紙通帳の印刷コスト相当額を、LINEスタンプはスタンプ売上の全額を、WEB完結型ローン実行件数はWEB完結型ローン手続にて削減となる郵送代等を当行がほっくー基金に拠出します。これにより、お客様は間接的にほっくー基金へ参加いただき、北海道の生物多様性保全に貢献することができます。

2025年度助成先について

2025年度は総額800万円を助成します。助成先の選定に際しては「ほっくー基金選定協議会」での協議に基づき、「ほっくーコース」7先と「トムコース」12先の計19先に決定しました。

ほっくーコース (助成金額上限100万円)

- ①クッチャロ湖等保全対策協議会
- ②一般財団法人支春森林財団
- ③公益財団法人知床自然アカデミー
- ④特定非営利活動法人TSUNAGU
- ⑤特定非営利活動法人ファーミングサポート北海道
- ⑥特定非営利活動法人 人まち育てI&I
- ⑦北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会

トムコース (助成金額固定10万円)

- ①里見緑地を守る会・どんぐり
- ②道立公園植生研究会
- ③NPO法人北海道森林ボランティア協会
- ④大雪と石狩の自然を守る会
- ⑤十勝川のシシャモを守る会
- ⑥大雪山マルハナバチ市民ネットワーク
- ⑦水車・アヤメ川自然公園を育てる市民の会
- ⑧繋ぐのは命プロジェクト
- ⑨遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ「ジオ・ザリ・クラブ」
- ⑩北海道大学狩獵同好会カリブ
- ⑪日本鳥学会2025年度大会実行委員会
- ⑫利尻島ウミネココロニーについて考える会

ほっくーコース①クッチャロ湖等保全対策協議会

1. 活動名称 浜頓別町に飛来する海ワシの渡りルートの基礎データ収集

2. 主な活動地域 浜頓別町

3. 採択金額 100万円

4. 活動内容

浜頓別町に最大400羽が飛来する海ワシ類（オオワシ・オジロワシ）を捕獲し、発信機を装着。本町に飛来する海ワシ類の渡りルートを含む基礎データを収集し、海ワシ類・地域・観察者の共生を検討します。また、自然再生エネルギー事業との共生を検討する際にも活用します。

海ワシ類の捕獲は、ネットガンまたは無双網を用いて行い、捕獲後は各種計測、発信機・足環を装着して放鳥します。国内に飛来している間はデータを確認することができますが、国外に渡ってしまうとデータの確認ができなくなり、翌シーズンに日本へ渡ってきた際に、蓄積したデータが送信される設定です。

ほっくーコース②一般財団法人史春森林財団

1. 活動名称 十勝の森の生物多様性保全を担う小中高生向けプログラムの展開

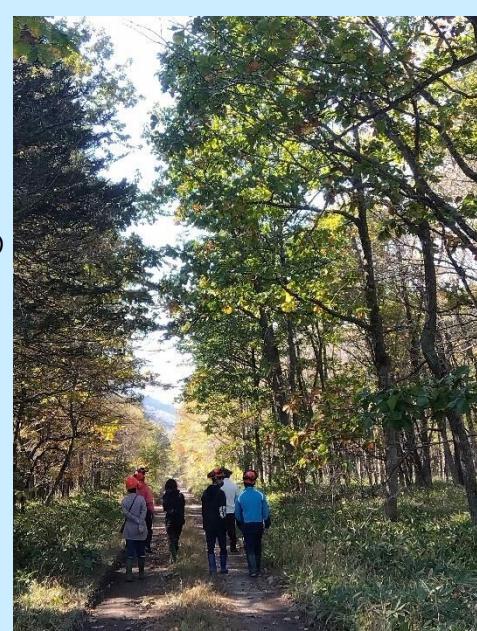
2. 主な活動地域 広尾町、大樹町

3. 採択金額 100万円

4. 活動内容

森林施業体験や森の生物多様性調査を通じて、子供たちが郷土の自然の豊かさを体感し、生物多様性保全への意識を高め十勝の森の生物多様性を担う人材を育成することを目的としてプログラムや

ワークショップを実施します。



ほっくーコース③公益財団法人知床自然アカデミー

1. 活動名称 知床ネイチャーキャンパス及び関連プログラムの実施

2. 主な活動地域 斜里町、羅臼町

3. 採択金額 100万円

4. 活動内容

河川生態系復元、希少種保護、市民協働などのオンライン講義と現地実習・演習で構成する学生向けの実践的教育プログラム「知床ネイチャーキャンパス」を実施しています。



ほっくーコース④特定非営利活動法人TSUNAGU

1. 活動名称 ヒトヒグマを守る「ベア・スマートな街づくり」普及活動

2. 主な活動地域 札幌市

3. 採択金額 90万円

4. 活動内容

市民と共に「ヒグマを人が寄せ付けない街づくり」＝「人とヒグマが共存できる環境」を目指し、ヒグマ学習、人起因の環境を作らない為の普及活動を実践します。市民主体で自らが学習・実践することで、北海道の環境保全に対し「他人事」から「自分事」へ意識変化を促し、北海道の生物多様性保護と持続可能な環境保全に寄与します。



ほっくーコース⑤特定非営利活動法人ファーミングサポート北海道

1. 活動名称 道西部で繁殖するアライグマの防除促進を目的とした
防除従事者養成プロジェクト

2. 主な活動地域 旭川市ほか

3. 採択金額 90万円

4. 活動内容

近年、野生化したアライグマの高い繁殖力により道内各地へ分布域を拡げている中で、農作物・畜産物への被害のみならず、生態系や人の健康を害する恐れがあるとして懸念されています。生物多様性保全の観点から特定外来生物のアライグマを排除していくため、防除従事者を養成する「アライグマ塾」を開催し、全道におけるアライグマ対策を強化していきます。なお、「アライグマ塾」ではアライグマの生態、捕獲に関する法令、ワナの取扱い、実践的な捕獲手法などを網羅します。

ほっくーコース⑥特定非営利活動法人 人まち育てI&I

1. 活動名称 エコツアーで湿地を保全！～ツアーガイド育成とプログラムづくり

2. 主な活動地域 石狩川中下流域

3. 採択金額 100万円

4. 活動内容

石狩川流域の残存湿地の保全啓発の推進のため、地道な保全活動とともに、より多くの人に湿地の価値と魅力を知つてもらうエコツアーを行うため、ツアーガイド発掘・育成のための研修やワークショップを開催します。



ほっくーコース⑦北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会

1. 活動名称 ウニ殻肥料で磯焼藻場の回復を！
～海の森づくり循環型再生システムの運用調査と活用～

2. 主な活動地域 積丹町

3. 採択金額 100万円

4. 活動内容

気象変動の影響でウニによってコンブの食害が進んだ「磯焼け」が問題となっています。

将来まで持続できるウニの生育環境が確立した町にするため、漁業生産から生態系保全にも配慮した「海の森づくり循環型再生システム」が地域の新たな事業として自走することを目指します。



トムコース①里見緑地を守る会・どんぐり

- 1. 活動名称** 2025年度里見緑地内生物多様性保全推進活動
- 2. 主な活動地域** 北広島市
- 3. 活動内容** 里見緑地12haを対象地として、植樹、育樹、支障木・枝の除伐と利活用、広場・遊歩道等の草刈り、緑地内の現況調査などを行います。



トムコース②道立公園植生研究会

- 1. 活動名称** 真駒内公園のカタクリ自生地及び野幌総合運動公園の野草園の育成に関する活動
- 2. 主な活動地域** 札幌市、江別市
- 3. 活動内容**

真駒内公園の「カタクリの里」、野幌総合運動公園の「野の花の丘」の2つのエリアで活動しており、今年20年目を迎えました。
 「カタクリの里」でのカタクリ観察路の整備・保全、「野の花の丘」での野草の見本園・育苗園の整備、維持管理などを行っています。



トムコース③NPO法人北海道森林ボランティア協会

- 1. 活動名称** 澄川都市環境林右精進川流域の水質・水生昆虫・ザリガニ調査
- 2. 主な活動地域** 札幌市
- 3. 活動内容** 市民の居住環境を守るうえで重要な役割を果たしている札幌市南区澄川都市環境林内を縦貫する右精進川において水質・水生昆虫調査を2019年から行っています。これに2025年度はザリガニ生息調査を加え、川の環境変化を知るために活動を継続します。



トムコース④大雪と石狩の自然を守る会

- 1. 活動名称** 石狩川上流部における野生サケの回復と定着
- 2. 主な活動地域** 旭川市
- 3. 活動内容** 41年間の活動を経て回復した石狩川上流部（上川盆地）における野生サケの増大と定着を図ることを目的に、石狩川におけるサケ産卵床及び遡上調査、サケ人工産卵床の造成と種卵埋設及びモニタリング、サケ遡上区間における湧水・伏流水及び河床の適地調査 等の活動を展開しています。

トムコース⑤十勝川のシシャモを守る会

- 1. 活動名称** 下牛首別川等の水質調査と清掃活動及び生物調査
- 2. 主な活動地域** 豊頃町ほか
- 3. 活動内容**

十勝地域の主要な魚種「サケ」の産卵河川における遡上環境を守るために、水環境の指標の一つである「C O D 値」を継続して観測し、さらに周辺河川の環境整備（清掃）を実施します。

また、近年、十勝地域に多くのタンチョウが飛来していることから、餌生物となる甲殻類の生息状況を確認します。

トムコース⑥大雪山マルハナバチ市民ネットワーク

- 1. 活動名称** 大雪山旭岳マルハナバチモニタリング活動
- 2. 主な活動地域** 大雪山国立公園周辺 ほか
- 3. 活動内容** 特定外来生物セイヨウオオマルハナバチは在来のマルハナバチと花資源（蜜源）や営巣場所をめぐって競合、また交雑・不妊化により在来種の生息を脅かしています。さらに高い繁殖力により平野部や農地に入り瞬く間に棲息が拡大しています。在来マルハナバチと共生関係を持つ大雪山の高山植物の保全の為、山系への侵入を防ぐべく平野部等での捕獲を通して密度を下げたいと考えており、定期的なモニタリングを実施します。

トムコース⑦水車・アヤメ川自然公園を育てる市民の会

- 1. 活動名称** 生物多様性を保全・保護し、自然環境の魅力を高め
次世代につなげ、市民と共に活用する活動
- 2. 主な活動地域** 伊達市
- 3. 活動内容** 春夏秋冬の自然観察会を行いこの公園の魅力に触れてもらう活動や笹刈り、植樹活動などの整備活動を行っています。様々な方法で公園の魅力を地域の方々に発信しています。
植生や昆虫等の調査活動を行い、希少生物の保護や環境保全にも取り組んでいます。
この公園の魅力を高め、多くの市民の参加により、生物多様性保全計画（第2次計画）の達成に向けた基本方針4「自然とのつながりの実感による道民行動の変容」に帰する活動をめざしています。

トムコース⑧繋ぐのは命プロジェクト

- 1. 活動名称** 天売島探検隊
- 2. 主な活動地域** 羽幌町天売島
- 3. 活動内容** 天売島にて、豊かな森・海・球体の空の中で北海道とは思えない断崖の海鳥を観察したり、島ならではの自然体験を通して、自然の営み・未来へつなぐ命を知り考える活動を行います。
北海道民も機会が少ない天売島で異世界の自然環境を体感し、環境保全の大切さを学ぶ機会を与えるために考えています。そして、未来の自然環境のために自分たちは何を考え、どう行動するべきかを自ら気がつくために地元の自然について『知る』時間を創ります。
そして、地元の自然を心から愛し守っていく地元民の心を育みます。

トムコース⑨遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ「ジオ・ザリ・クラブ」

1. 活動名称 ウチダザリガニ防除活動及び自然環境保全に関する普及啓発活動

2. 主な活動地域 遠軽町ほか近隣市町村

3. 活動内容 ウチダザリガニの防除活動を通じて、

湧別川水系における在来種の保護と生態系の保全を図ります。

教育機関等と連携した防除活動を行うことにより、次代を担う子供たちが自然と触れ合い、地域の自然に関心を持つとともに、環境保全の重要性に関して理解を深める機会を提供します。



トムコース⑩北海道大学狩猟同好会カリブ

1. 活動名称 北海道大学札幌キャンパス及びその周辺地域におけるアライグマの捕獲活動

2. 主な活動地域 札幌市

3. 活動内容 北海道大学札幌キャンパス及びその周辺地域において、

アライグマの捕獲活動を行います。トレールカメラなどを用いた観察によって、札幌市街地でのアライグマの行動圏・嗜好環境を調査します。

さらに2022～2024年度に実施した札幌キャンパス内の捕獲活動を総括し、学会誌への投稿もしくは学会での報告を行います。



トムコース⑪日本鳥学会2025年度大会実行委員会

1. 活動名称 日本鳥学会2025年度大会 ジュニア・ユース企画

2. 主な活動地域 札幌市

3. 活動内容 日本鳥学会2025年度大会（北海道大学・北海学園大学）において、小学生から高校生を対象として、鳥類を題材とした研究と活動に関する発表の機会を設け、優秀な研究や活動について表彰を行います。また、キャリア育成に関する勉強会等を実施し、自然科学分野における人材育成に貢献し、北海道における鳥学研究の魅力をアピールします。

トムコース⑪利尻島ウミネココロニーについて考える会

1. 活動名称 オオセグロカモメのヒナの熱中症防止大作戦

2. 主な活動地域 利尻島、礼文島、稚内市

3. 活動内容 オオセグロカモメは近年急速に減少しており、北海道および環境省の準絶滅危惧種に指定されています。当会の調査ではここ数年は個体数だけでなく雛の巣立ち率も極めて低く、巣立ちゼロが続いている地域もあります。本種の雛の死亡原因はこれまで捕食や餌不足が主でしたが、近年は防波堤上で多く繁殖するため日差しを遮るものもなく、熱中症の様な症状で死亡する雛が多くなっています。雛の死亡が本当に熱中症によるものかは判然としませんが、昨年当会が試験的に日よけとなるコンクリートブロックを設置したところ、雛が日よけとして利用していること・周辺の雛の巣立ち率上昇を確認できました。2025年度はこの試みを規模を拡大して行い、雛の巣立ちをサポートします。